平成２７年度　事業報告

〔　会　勢　〕

１　会員数

期首（４月　１日）　　１５２会員
期末（３月３１日）　　１５０会員

２　会費口数

期首（４月　１日）　　８９４　口
期末（３月３１日）　　８８３　口

３　役員

理事１３名（うち　会長　１名、副会長　２名、常務理事１名）
監事　２名

４　職員

事務局長（常務理事兼務）　１名、総務班　１名、じん芥処理班　７名、

５　主要施設

施　設　名	形　状　寸　法　等	数　　量	摘　　要
（１）設備			
第一清港丸	木造船　4.8トン	１隻	川崎市より無償貸与
つばき	鋼船　　13.0トン	１隻	〃
陸揚げクレーン	2トン吊	１基	〃
油回収装置		１式	〃
フォークリフト	2.38トン積み	１台	清港会所有
（２）土地・建物			
土地		2，163.048㎡	川崎市より無償貸与
管理事務所	鉄骨造平屋建	56.33㎡	〃
作業員詰所	鉄筋コンクリート造２階建	133.46㎡	〃
焼却炉建屋	鉄筋スレート葺き平屋建	219.30㎡	〃
誘引通風機室建屋	コンクリートブロック造平屋建	32.00㎡	〃
燃料庫建屋	コンクリートブロック造平屋建	9.93㎡	〃

〔 事　業 〕

本会は、川崎港内における漂流物等の除去、及び環境保全の啓発等を行うことにより、海水面を良好な状態に維持し、もって船舶の航行安全、公衆衛生及び環境保全の向上に寄与するため、次の事業を行った。

1　海面の清掃

川崎市から委託された海面清掃船「つばき」及び「第一清港丸」の2隻体制で、平日の午前午後の各一回、川崎港内16運河を中心にして東扇島の防波堤周辺・東公園周辺を巡回すると共に、川崎市や海上保安本部、会員企業などからの通報にも対処し、じん芥や流木等の収集を行った。

平成２７年度の収集実績は表１のとおりであるが、台風第１８号の影響で９月のじん芥収集量が多く、前年度を１７パーセントほど上回った。

表1.　平成２７年度　じん芥収集実績表　　注）塵芥収集量の中に流木を含む

月　別	稼働日数	稼働人員延数	じん芥収集量	摘要（産廃等）
4	２１日	１３７人	１７．２５㎥	ブイ、ブルーシート
5	１７	１０２	１７．２５	発泡スチロール、麻袋、ブルーシート
6	２０	１２２	２３．２５	古タイヤ
7	２１	１２５	３７．００	発泡スチロール
8	２１	１０９	６５．５０	古タイヤ
9	１９	９７	１８２．２５	
１０	２１	１２４	４７．７５	マットレス
１１	１９	１２０	１５．２５	
１２	１８	１２１	１７．５０	
1	１７	７７	２１．２５	古タイヤ
2	１７	１１９	１１．２５	
3	２１	１２８	１６．７５	古タイヤ
合　計	２３２日	１，３８１人	４７２．２５㎥	
26年度	２３５日	１，２８６人	４０２．７５㎥	

ドック入り期間　「つばき」　１／　５～　１／２０
「第１清港丸」９／１１～１０／１３

その他　「つばき」　７／２９～　８／７　スタンチューブ修理の為未出航

2　流出油の事故処理

平成27年度は、５月の京浜川崎シーバースでの油流出事故に際し「つばき」を出動させて流出油の拡散を行った他、京浜運河での小規模な油流出事故への出動も行った。

本会は、「川崎管内排出油等防除協議会」に参加し、協議会や川崎市の出動要請に対応しており、「つばき」に油回収装置を搭載して稼働させる訓練を3回行い、即応態勢を整えた。

3　環境保全の啓発

（1）「海を守る月間」

7月に行われる「東京湾クリーンアップ大作戦」推進会議に参加し、海面清掃船2隻に「海をきれいに安全に」の横断幕を掲出するとともに、詳細な収集データを提供した。

（2）「清港会独自キャンペーン」

8月に当会の独自キャンペーンとして、「きれいな海を未来の子どもたちへ」を合言葉に、

①清港会作成のポスターを、川崎市営バス塩浜営業所管内の路線バス車内に掲示するとともに、会員各位に配布した。

②海面清掃船2隻に横断幕を掲出した。

（3）「川崎みなと祭り」参加

10月10日・11日、川崎マリエン前広場に川崎清港会のブースを設け、清港会の活動状況を紹介した。また、清港会職員が操船時などに使用しているロープワークを日常生活や火災、地震発生時等に応用できるよう市民を対象に「ロープワーク教室」を開催した。

（4）事業活動見学会

川崎市や「川崎みなとガイド協会」等が行う川崎港見学の一環として、清港会の海面清掃船の活動状況や、収集したじん芥・流木の状況説明を行い、特に収集量の多いビニール袋やペットボトルの投げ捨て防止をアピールした。

（5）川崎マリエンでの啓発展示

公益社団法人川崎港振興協会との協働で、清港会の活動紹介や川崎港の環境保全への理解を市民に深めてもらうための展示を川崎マリエン２階に於いて行った。

この展示品は、「川崎みなと祭り」の際にも川崎清港会のブースに展示しており環境保全への理解の取掛かりとして活用している。今年度は魅力ある川崎港をイメージした昼夜2種のオブジェを新たに作成し、昼夜景を切り替えるようにした。

4　その他

新規会員の獲得に努め、２団体が加入した。